

『長野県におけるダイバーシティ ～女性と定住外国人を対象に～』

プレスリリース

4/15/2016

信州大学人文学部社会学研究室

教授 辻 竜平

『長野県におけるダイバーシティ』 調査について

- 2015年度，社会学分野における「社会調査実習」という授業の一環として行った調査
- 県内20市町村，計2,000人を対象とした調査票調査（「長野県20市町村調査」）が中心となる調査
 - 箕輪町・伊那市・諏訪市での役場，企業・団体への聞き取り調査
 - 上記20市町村の役所/役場に対する調査票調査
- 『長野県におけるダイバーシティ～女性と定住外国人を対象に～』は，これらの調査データを分析し，報告書として作成したもの
- 調査にご協力いただいた市町村と調査対象者の方々に研究室一同感謝します

調査の目的

- グローバリゼーションの進展
 - 県内でも、外国人旅行者が増加している
 - 長野県内の外国人人口は、2015年12月末現在、30,443人
長野県人口のおよそ1.5%を占める
 - 日本の世界における地位の相対的低下
 - 日本の産業や経済力を維持していくために...
- 外国人労働者
 - 日本の人口が漸減する中で、労働力としての役割が期待される
- 女性
 - 男女共同参画社会が提唱され、女性が社会的に活躍するようになってきている

その一方で...

- 不安や反対意見
 - 外国人の増加が治安の悪化をもたらすのではないかという不安や、女性は外で働くよりも家庭を守るべきではないかという意見もある
- キーワードは、「**ダイバーシティ**(多様性)」
 - **誰が**, **ダイバーシティ**を支持するのか, 反対するのか?
- 「**誰が?**」→市民性や政治的志向性の違いとして捉える
 - つまり、どのような志向性を持つ県民が、定住外国人や女性の活躍に賛成するのか, 反対するのかを明らかにする
- 「**ダイバーシティ**」は不可避の方向性
 - 何が妨げになっているのかを明らかにし, 方策を考える

調査概要

- 「長野県民の生活と政治に関する調査」が中心的な調査
 - 県内20市町村の住民2,000人を対象とした調査
 - 市部(10市): 安曇野市、飯田市、伊那市、上田市、岡谷市、茅野市、東御市、中野市、長野市、松本市
 - 町村部(10町村): 阿智村、阿南町、川上村、木曾町、信濃町、下條村、富士見町、松川町、松川村、箕輪町
 - 各市町村から100人ずつ, 計2,000人を選挙人名簿から無作為抽出
 - 2015年9月に実施
 - 回収は1140票, 無効票を除く有効回収率は59.6%
(詳細は, 表1-2)

市民性と政治的志向性の測定

- 市民性
 - 「一般的信頼」尺度(山岸, 1998)
 - 辻が開発した「寛容性」尺度－3因子に分かれる
 - 文化や価値観の違う人々とのつきあい
 - 文化や価値観の違う人々への配慮
 - 不愉快な意見への耐性
- 政治的志向性
 - 現在開発中の「政治的志向性」尺度(表2-3-1)
 - キムリッカ(2005)など政治理論をもとに考案した政治的主義主張を質問項目に落とし込み, それを, 一般の人々に区別して認識されているかどうかを確認した
 - 一般の人々も, おおむね政治理論に沿うように政治的志向性を形成していることが確認された

政治的志向性と、性別役割分業意識・家事分担との関係

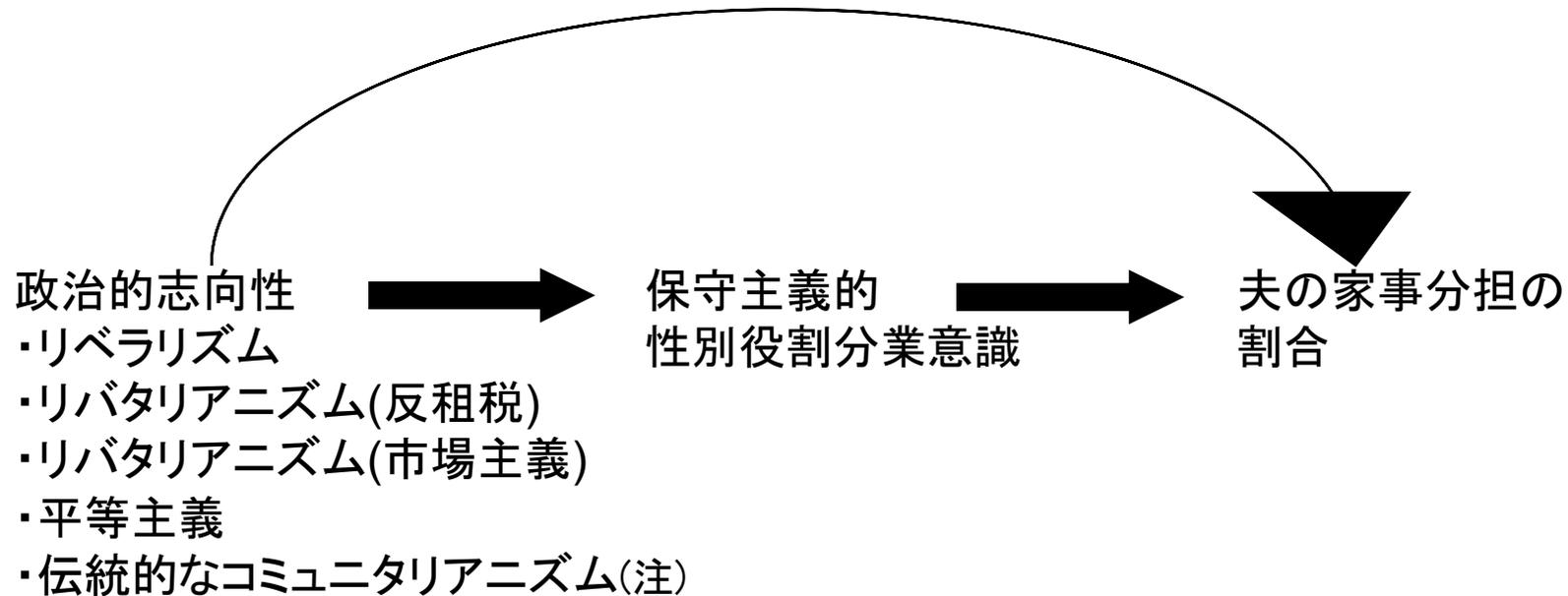


図3-2 仮説のパスモデル

分析結果の詳細は、表3-2-3と表3-2-4

注:「伝統的コミュニタリアニズム」とは、政治的志向性尺度の中で、「コミュニタリアニズム」因子の中から、特に「過去志向のコミュニタリアニズム」の2項目の値をウェイト付けで抽出したもの

政治的志向性と、性別役割分業意識・家事分担との関係

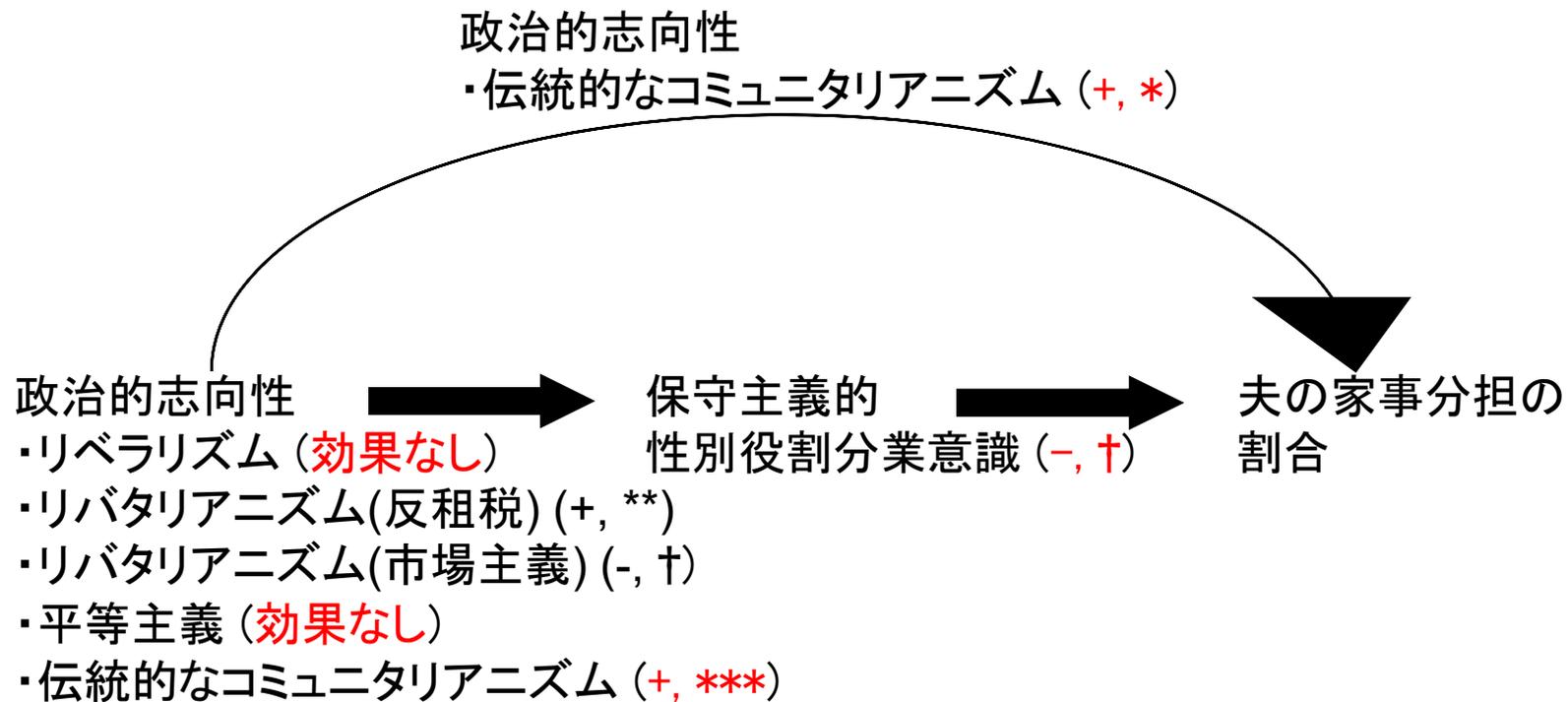


図3-2 仮説のパスモデル

分析結果の詳細は、表3-2-3と表3-2-4

結論：家事分担の敵は、伝統的なコミュニタリアニズム
どうやって保守主義的性別役割分業意識を減らすかが課題

ソーシャル・キャピタルと女性の就業

- 女性の就業率のM字カーブ
 - 一般に学校卒業後の年代で高く
 - 結婚・出産期に一旦低下し
 - 育児が落ち着いた時期に再び上昇する
 - 10年前と比較すると、M字の底だった30～34歳の就業率が最も上昇している→出産後に復職しやすくなっている
 - 依然として、出産後に復職したくてもできない女性は多く、また、出産前は正規として働いていても、復職後は非正規にとどまるケースも多い
- 地域内で結束型SCが豊かな地域の女性は、子育ての負担が軽減され、出産を機に離職した女性が復職しやすいか？

16種類のライフコース		出産後			
		正規	非正規	自営	無職
出産前	正規				
	非正規				
	自営				
	無職				

- ソーシャル・キャピタルの指標
 - A) 「市町村内で付き合いのある家族・親戚」,
「市町村内で付き合いのある友人・知人」
 - B) 「市町村内のボランティアやデモ活動参加」,
「県内のボランティアやデモ活動参加」,
「全国規模のボランティアやデモ活動参加」
 - C) 「町内会関係の組織への参加」,
「同窓会関係の組織への参加」,
「趣味に関わる組織への参加」,
その他の参加(単独カテゴリ)

ソーシャル・キャピタルと 女性の就業

ライフコース (基準:正規→正規)	要因
正規→非正規	PTA**, ※労働組合*, 生協・消費者団体†
正規→無職	年齢†
非正規→非正規	生協・消費者団体*, 世帯収入-†
自営業→自営業	年齢***, 町村部†, 市町村内友人・ 知人数*, 趣味関係-†
無職→正規	年齢*
無職→非正規	教育年数-†
無職→無職	年齢**, 市部*

- 市町村内のSC(A)の効果はなかった
- 何でもかんでも「ご近所の力」で解決できるわけではない
- 地域社会のSCが働くように、地域社会の設計と投資が必要

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

変数名のみは正の効果、-は負の効果

※ 「変数除去後」のモデルで除去された変数

分析の詳細は、表3-3-1

女性が理想の働き方を手に入れる ために必要と考えること

- 質問:「理想の働き方」を実現させるためには、それに先だってどのようなものが必要だと思うか
 - 項目を挙げて、該当するものに○を付けてもらった
- 5つの潜在クラスに分類(詳細は、表3-4-7)
 - 家族と本人型:家族のサポートや、本人の時間・健康・能力
 - すべて不要型
 - すべて必要型
 - 会社と本人型:会社の制度や、本人の時間・健康・能力
 - 外部サポート型:家族のサポートや、公的なサポート、会社の制度

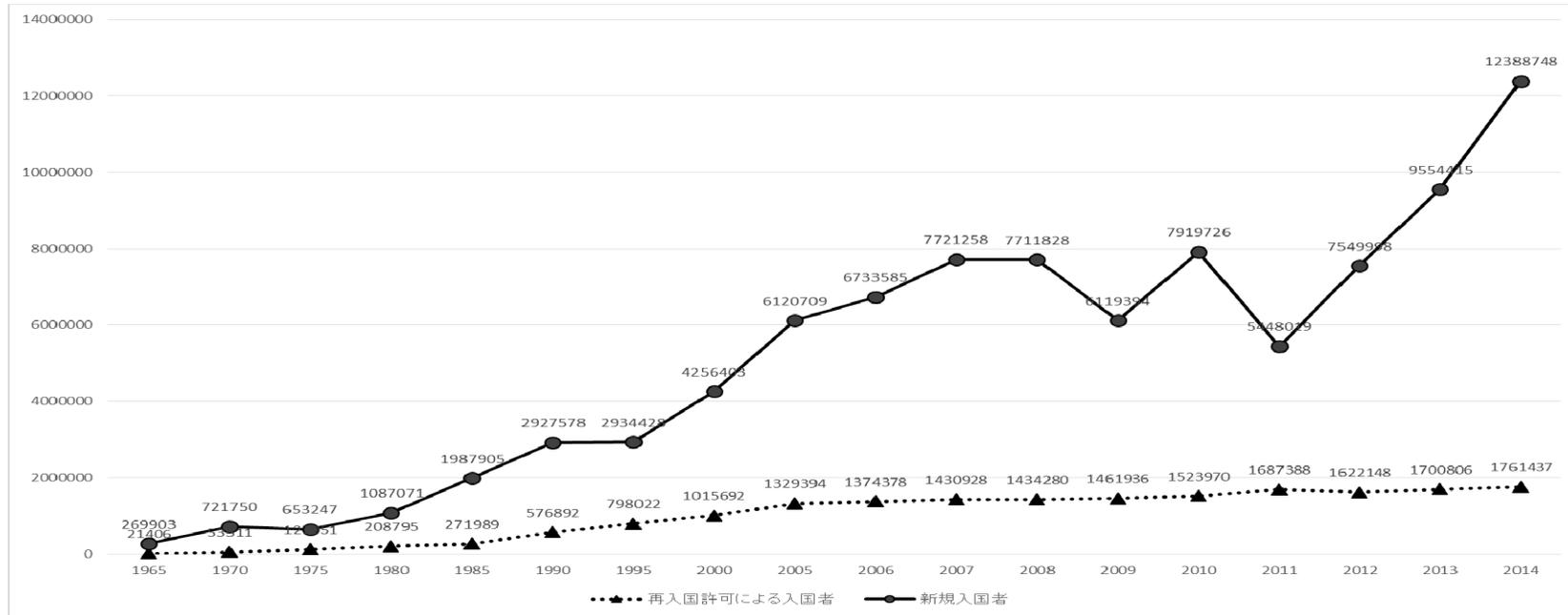
女性が理想の働き方を手に入れる ために必要と考えること

- 誰が、どのようなことを必要としているのか？

基準:すべて不要型		家族と本人型		すべて必要型		会社と本人型		外部サポート型	
		B (SE)		B (SE)		B (SE)		B (SE)	
有子女性のライフコース(基準:一貫就業)									
	再就業	0.244 (0.929)		0.753 (1.110)		2.531 ** (0.795)		1.098 (1.490)	
現在の就業形態(基準:無職・家事・内職)									
	正規雇用	-0.566 (1.863)		-0.801 (1.610)		-1.235 (1.118)		-1.881 (1.902)	
	非正規雇用	1.468 (1.424)		-0.562 (1.517)		0.217 (0.925)		-0.842 (1.583)	
年齢		-0.127 * (0.053)		0.024 (0.070)		0.012 (0.039)		-0.170 † (0.091)	
学歴		0.228 (0.455)		1.238 † (0.650)		0.385 (0.397)		-0.176 (0.718)	
世帯収入		-0.659 (0.892)		1.804 (1.308)		0.019 (0.604)		1.558 (1.515)	

現在、ワークライフバランス支援の議論は、家庭の時間を犠牲にしながら過剰就業する男性と、出産後就業継続できない女性について扱うものが多い。人々の現実と理想の働き方について適切に把握し、幅広い支援を行うことが求められている

日本への外国人の 入国数と労働者数



- 2014年の新規入国者数: 12,388,748人,
再入国許可による入国者数: 1,761,437人
- 長野県内の外国人人口は、2015年12月末現在、30,443人
- 2014年10月末現在の外国人労働者数: 787,627人
 - 中国人 311,831人, ブラジル人 94,171人, フィリピン人 91,519人, ベトナム人 61,168人など
 - 製造業に従事する人が最も多く、外国人の34.7%が従事

ナショナリズム

愛国主義の因子分析	国への誇り	愛国心教育	反愛国主義
日本が、自由と民主主義の国であることを誇らしく思う	.799	.026	.035
日本人であることに誇りを感じる	.783	.034	-.062
日本の文化を誇らしく思う	.783	-.033	-.061
日本が、平和主義の国であることを誇らしく思う	.744	-.035	.104
子どもたちがもっと愛国心を身につけるように、戦後の教育を見直さなければならない	-.065	.974	.007
子どもたちがもっと国民の責務について理解できるように、戦後の教育を見直さなければならない	-.042	.798	.035
公立の学校では、もっと愛国心を育む教育を行うべきである	.130	.751	-.056
愛国心を持つことを強制することは、軍国主義への道を歩むことにつながる	.014	.025	.894
愛国心を育む教育を行うことは、個人の信条の自由を侵害することになる	.010	-.028	.607
因子間相関			
	国への誇り		.321
	愛国心教育		-.400

純化主義の因子分析	純化主義
日本人と結婚していること	.783
人生の大部分を日本で暮らしていること	.762
日本語が話せること	.716
先祖が日本人であること	.715
日本で生まれたこと	.697
日本の国籍を持っていること	.618
仏教または神道の信者であること	.609

排外主義の因子分析	排外主義
工場のラインで働く外国人	.895
介護施設で働く外国人	.859
高度な技術や技能を持つ外国人	.726

田辺(2011)に従い、ナショナリズムを3つの下位概念に分類し、因子分析

ナショナリズムの規定因

- 市民性の効果
 - 国への誇り
 - 一般的信頼 (+, ***)
 - 愛国心教育
 - [特になし]
 - 反愛国主義
 - 不愉快な意見への耐性 (-, **)
 - 純化主義
 - 不愉快な意見への耐性 (-, **)
 - 排外主義
 - 不愉快な意見への耐性 (-, ***)
- 政治的志向性の効果
 - 国への誇り
 - リバタリアニズム(反租税) (-, *)
 - **コミュニタリアニズム (+, ***)**
 - 愛国心教育
 - リバタリアニズム(反租税) (+, ***)
 - 平等主義[リベラル] (-, *)
 - コミュニタリアニズム (+, ***)
 - リベラル多文化主義 (-, ***)
 - 反愛国主義
 - 平等主義[リベラル] (+, *)
 - コミュニタリアニズム (-, ***)
 - リベラル多文化主義 (+, **)
 - 純化主義
 - リバタリアニズム(反租税) (+, *)
 - リバタリアニズム(市場主義) (+, **)
 - コミュニタリアニズム (+, ***)
 - **リベラル多文化主義 (-, *)**
 - **ラディカル多文化主義 (+, *)**
 - リバタリアニズム(反租税) × コミュニタリアニズム (+, *)
 - 排外主義
 - **リベラル多文化主義 (-, **)**

詳細は、表4-1-4

ナショナリズムの規定因

- 階級の効果
 - 国への誇り
 - 教育年数 (-, *)
 - 世帯収入 (+, ++)
 - 愛国心教育
 - 教育年数 (-, *)
 - 反愛国主義
 - 世帯収入 (-, *)
 - 純化主義
 - 専門 (-, **)
 - 排外主義
 - 専門 (+, †)
- 外国人とのつきあいの効果
 - 国への誇り
 - [特になし]
 - 愛国心教育
 - [特になし]
 - 反愛国主義
 - [特になし]
 - 純化主義
 - 外国人とのつきあい (-, *)
 - 排外主義
 - 外国人とのつきあい (-, **)

詳細は, 表4-1-4

外国人への権利付与の規定因

- 市民性の効果
 - 文化や価値観の違う人々への配慮 (+, **)
- 政治的志向性の効果
 - リバタリアニズム (反租税) (-, *)
 - リベラリズム (+, *)
 - ラディカル多文化主義 (+, **)
- ナショナリズムの効果
 - 愛国心教育 (-, *)
 - 排外主義 (-, ***)
- 階級の効果
 - [特になし]
- 外国人とのつきあいの効果
 - [特になし]
- 外国人を、文化を乱すものとして端から受け入れようとするしない人
 - 少しずつ多文化社会の到来を受容してもらえるように、政策レベルや草の根レベルで取り組んでいくことが必要だろう
- 外国人を、競争の過酷さのために受け入れようとするしない人
 - 学校、特に大学や大学院において、世界を相手に競争していける人材を養成していくための、さらなる改善が必要だろう

詳細は、表4-1-4